

## 萩往還—歴史街道

17世紀初頭に整備された歴史街道の一部が山口県萩市と山口県防府市の間に残っています。ウォーキングツアーでは萩往還をたどり、町の中心部や田舎の農村地帯を通り、森林に覆われた峠を越える狭い石畳の小道に沿って進みます。このルートを探索すると山口県の歴史と江戸時代(1603年-1867年)の文化を深く知ることができます。

この街道は1604年に萩城が築城された後、長州藩(現在の山口県)の統治者である毛利家によって開発されました。萩往還は毛利家が統治していた土地を結び、日本海と瀬戸内海の間の交通と貿易を改善させました。

1635年から長州藩主は徳川幕府によって課された参勤交代の一環として萩と首都江戸(現在の東京)を隔年で行き来しました。彼らは家臣とともに萩城から萩往還に沿って大行列を組んで三田尻、現在の防府市の港まで旅し、そこで船に乗って江戸に向かいました。1年間都に滞在した後、彼らは萩に戻りました。

萩往還は約53キロメートルにわたり、最高地点は板堂峠(537m)です。山口市の天花坂口から萩市との境にある板堂峠までの約2.5キロメートルの区間は特に風光明媚で、人々が休憩するために立ち寄った茶屋跡などの史跡が点在しています。